

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4699300010
法人名	有限会社ソフィア・インターナショナル
事業所名	グループホームみさき
訪問調査日	平成19年11月5日
評価確定日	平成20年2月13日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月11日

【評価実施概要】

事業所番号	4699300010		
法人名	有限会社ソフィア・インターナショナル		
事業所名	グループホーム「みさき」		
所在地	鹿児島県大島郡伊仙町犬田布ケマシ475-1 (電話)0997-81-9060		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48-13		
訪問調査日	平成19年11月5日	評価確定日	平成20年2月13日

【情報提供票より】(平成19年5月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤	人, 常勤換算 16 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	200 円	
敷金	有(0円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	63 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	伊仙クリニック、上木歯科診療所
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

景勝の地犬田布岬近くのサトウキビ畑の中に散在する民家の中に当ホームがある。居室やホールからは太平洋の水平線を望むことができる。管理者と職員は、経験や工夫を重ねて、こまやかで行き届いた排泄支援に取り組み、居室にポータブルトイレが置かれていない。また、毎食後の口腔ケアの一環に口腔消毒薬によるうがいを続けて、風邪の罹患者が一人も出ないなど介護への工夫に家族と共に取り組み、家族や入居者にとって安心と安全のホームとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価を受け取った後、職員で話し合い、要改善点の解決に取り組んだ。口腔ケア、水分摂取量など改善されている。介護計画については見直しの期間の改善が望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は全職員で取り組み、評価を理解し活用している。取りまとめの段階でA棟B棟まったく同じ評価表現となっているが、それぞれの特徴が反映される工夫が期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	委員は利用者の代表や家族の代表も加わり、奇数月に定期的に開催している。委員から積極的な発言が見られ、特に、運営管理に協力的な発言が目立ち、広い敷地の環境づくりや、地域の協体制作りに力を発揮している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月、個別連絡に健康・受診、食事・おやつ、排泄・入浴・睡眠、歩行・動作などの状況や家族への連絡事項を写真入で郵送している。また、面会時や電話でも報告している。家族の意見や相談事には、施設長がこまめに対応し、運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	「なじみの人たちがこの徳之島で暮らす」ことが、ホームの理念であり、日常生活の中で交流が持たれている。地域の老人の集いや、美化活動に参加したり、地域の人が野菜を持参したり、ホームで育てた花の苗をあげたりして地域との交流がなされている。地域の収穫祭(イッサンサン)では、子どもたちが案山子を持って各戸周りの中にホームにも訪れ、踊りをするなど地域に溶け込んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「なじみの人たちと共にこの徳之島で暮らす」「一人ひとりの個性を尊重し、笑顔のある自立した生活を一生懸命におうえんします。」などを理念に掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員担当者会やサービス担当者会などで、理念について話し合い、地域の中で笑顔で自立した生活の実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人の集いや、美化活動に参加したり、地域の人々が野菜を持参したり、ホームで育てた花の苗をあげたりして地域との交流がなされている。地域の収穫祭(イッサンサン)では、子どもたちが案山子を持って各戸周りの中にホームにも訪れ、踊りをするなど地域に溶け込んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受け取った後、職員で話し合い、要改善点の解決に取り組んだ。また今回の自己評価は全職員で取り組み評価を理解し活用している。		A棟・B棟のスタッフのその棟らしい自己評価が見られるようになることを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域推進会議では、「庭に畑を作ったらどうか」、「ボランティア活動で応援に行く」とか、「畑に肥料をどのようにやるか」、「入居者が外出しやすいように、公衆便所を洋式にするように役場に交渉してあげる」などと協力的発言もみられ、意見を取り入れサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	面会が少ない家族との関係改善、入居者の金銭問題、家族間の問題など、担当者を通じて、行政の力を借りて解決しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「 様の近況をお知らせします。」という個別連絡に健康・受診、食事・おやつ、排泄・入浴・睡眠、歩行・動作などの状況や家族への連絡事項を写真入で郵送している。また、面会時や電話でも報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書で相談・苦情についての基本を案内するほかに、相談苦情箱を設置したり、面会や家族会の折に意見を聞くようにしている。具体例として家族の面会を忘れがちな利用者には面会後の感想を書いてもらい認識が薄れない工夫を実践し、効果を上げている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率が高く、職員が仕事に張り合いを持って望めるように配慮し、異動による影響への取り組みをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	大島地区グループホーム協会や同徳之島支部の研修会兼介護保険課からの研修会などに参加したり、系列法人間の研修に参加している。また、関連資格の取得にも環境づくりをしている。		職員研修の計画を作り、主体的な人材育成が望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	徳之島の4グループホーム間で協力して、講師を招き地域住民やグループホームスタッフ向けの公開講座を開催するなど、企画推進を通じて、同業者間の交流を通じ、サービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談を受けた時点から、入居に至るまでに、見学、会食、一日入園などその人に応じた馴染み関係を築きながらサービスの利用に導いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から地域伝来の行事食(正月・お盆・月見など)の作り方や、畑の野菜や花の植え付け・収穫など暮らしの知恵を教えてもらったりしながら共に生活し、日々の介護に当たっている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のそばに寄り添い、したいこと・したくないこと、食べたいもの・食べたくないものなどや思いを汲み取るようにして、笑顔で支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族・本人・主治医などの意見や思いを受け止め、ケア担当者会を開き、皆の意見を集約して、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則として介護保険の切り替え時(年1回)に計画の見直しをしている。状態の変化があったときはその都度見直しをしている。		介護計画の遂行状況や効果を評価しながら、計画の見直しをすることが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの環境作りをしながら入居できるように、ホームでの体験入園、入居者の帰宅・墓参の支援、通院や理・美容院利用の支援など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人のかかりつけ医を中心に支援している。緊急時などは家族の了解を得、系列法人の受診支援も行い、家族や本人の安心・安全の確保に努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化への対応として、ホーム側で介護用ベッドの導入をするなど職員間での共通認識もできており、家族や主治医との話し合いもできている。終末期については、主治医と家族の判断に委ねているが、基本的には系列法人の医療機関を利用する方向性である。		終末期について、更に話し合いを進め方針を家族等に早い段階から提示できる工夫が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄支援や入浴支援など尊厳やプライバシーにかかわる場面など特に配慮した支援をしている。また、来所者受付名簿を作らないなど個人情報保護にも配慮し、職員は入職時に個人情報保護の誓約と研修を受けている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、個々人の生活の流れに沿ってその人なりのリズムで支援している。朝ゆっくり起きて9時過ぎに朝食をとる人や、夜9時ごろ入浴する人もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望の食べ物や、季節の料理、郷土料理など皆で話し合いメニューに取り入れている。また、畑で自分たちで育てたかぼちゃ・トウガン・バナナなども食材に取り入れている。食事の準備や後片付けなど、それぞれのできることをしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全員入浴介助が要るが、希望の時間に入浴できるように支援し、気持ちよく入浴できるように、島みかんやショウブなどの薬草湯などを準備して、入浴の楽しみを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、食材の下ごしらえ、食事の準備、後片付け、軽い掃除などホームの日常生活の中でできる役割を果たしている。ツワブキと豚骨の煮込み料理・アブラソーメンなど郷土料理を作って楽しんだり、島唄や闘牛踊りなど生活の中で体に染み込んでいるリズムを楽しんだりしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩は、身体機能の低下にしがたがって、出かける人が少なくなりつつあるが、ドライブや地域行事への参加など外出機会を作り支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は職員全員が理解し、昼間は鍵をかけないで、開放している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火・避難訓練は、昼間訓練と、地域の協力の下で夜間訓練も実施している。台風時の長時間停電に備え、自家発電機も準備し対応を進めている。非常時備蓄については、自ホームでの準備のほかに系列法人の施設間で支援体制もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスについては、系列法人の管理栄養士により基本献立の支援があり、入居者一人ひとりの状態に応じて、調理方法や献立内容の個別支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内部は清掃が行き届いており、玄関にはミニ花壇が設けられ、ホールには入居者の作品が飾られて、採光も自然を利用し、落ち着いたある居心地の良い空間となっている。		入居者の利用状況・身体状況に応じて、音響機器へのきめ細やかな配慮が望まれる。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ち込んだ寝具などが居室に置かれている。本人の描いた作品なども掲示してあるなど居心地よく過ごせる工夫もなされている。		